

	課題（児童の実態、学習状況、指導の実態）	改善プラン（課題の改善プラン、具体的な手だて）
国語	・ 友達の意見は聞いているが、自分の考えと比べて考えを深めようとする児童が少ない。 ・ 文章の書き方や原稿用紙の使い方など、書くルールを身に付ける必要のある児童が多い。 ・ 文学的文章や説明的文章の学習では、叙述を基に想像したり考えたりすることに苦手意識をもつ児童が多い。 ・ 小テストで漢字を書ける児童でも、日常的に漢字を使う意欲が低い。	・ 児童が友達の意見による考えの深まりを実感できるように、少人数での交流の場面を多く作っていく。また、メモを取るためのワークシートを工夫し、友達の考えと自分の考えを比べ同じ点や違う点を比較検討し再考することで考えを深められるようにする。 ・ 週末など、自主学習の宿題の中に自分の感想を書かせる。条件（自主学習のテーマ設定の理由・調べたこと・感想）を指定してその条件のもと感想が書けるように指導していく。 ・ 文学的文章と説明的文章のどちらを読む際にも、教科書の文章に直接書き込みをさせることで、想像したことや考えたことへの根拠となる部分や文はどこなのかははっきりさせる。考えを伝える際、根拠となる部分が叙述のどこにあたるのかを伝えられるようにしていく。 ・ 作文指導の中で漢字を使うように声を掛けるとともに、使った漢字の字数をカウントするなどしながら日常的に漢字を使用する意識を高めていく。
社会	・ 社会科の学習意欲は高いが、社会的事象について興味や関心のある児童とそうでない児童の二極化が見られる。 ・ 資料やICT機器を活用して調べることはすすんで行うが、調べたことの中から重要な部分を見つけ出し自分の言葉でまとめることが難しい児童が多い。	・ 学習者用端末等のICT機器を活用することで、高い学習意欲を社会的事象についての興味や関心につなげられるようにする。 ・ 調べたことの中から、重要であると思う箇所に印をつけ、その言葉を使いながら、全体でまとめていく作業を繰り返し行うことで、個人でもまとめる力を身に付けさせていく。
算数	・ 5展開の習熟別指導を行っている。 ・ 既習事項の基礎的な計算などをさらに身に付ける必要のある児童がいる。 ・ 課題解決について自分の考えを明確に示すことが難しい児童が多く、個人差も大きい。	・ 5展開指導で児童に応じた習熟度指導を行い、個人差に配慮した授業展開をする。 ・ 既習事項の定着を確認しつつ、反復して練習問題等に取り組みせ、習熟を図っていく。 ・ 単元に応じて式の意味や考えを交流する場面を作り、友達の意見を取り入れたり、参考にしたりすることで考えの示し方や図

	既習の四則計算の習熟に差がある。	示する方法などを身に付け、その必要感や有用感を感じられるようにする。
理科	- 全般的に知識はあるものの、体験を伴ったものが少なく自信がないため、日常に生かすことが難しい児童が多い。 - 話し合い活動などは、他教科でも行われているようで、意見を聞いたり自分の考えを伝えたりすることは慣れている。 - 日常での ICT 機器の操作には大分慣れているため、授業での活用力をさらに高めていく必要がある。	- めあてを明確にした実験観察を増やすことで、学習活動に根拠をもって予想ができるようにする。また、実験技能の向上にも努めていく。 - 学習者用端末を利用し効率的に、自分の班だけでなくクラス内の友達との交流から学びを広げられるような指導を行う。
体育	- 感覚の偏りや運動技能に差が見られる。 - 苦手とする運動では、運動に対する意欲が低下気味の児童が見られる。	- めあてと指導のポイントを具体的に示し、スモールステップで行うことで見通しを持たせ、基本的な動きや体の使い方を身に付けていけるようにする。 - ワークシートで振り返りを書かせることによって、自己の動きの良い点や課題、解決方法を明確にし、次時の授業で解決に向けて実践できるように指導していく。 - ルールを基本的なものだけにし、実態に合わせて取り組んでいけるように児童中心に決めていくことで苦手な児童も積極的に取り組めるようにする。 - 必要に応じて、技能に合わせてコースやめあてを選択できるようにして、意欲と技術の向上を図る。
道徳	- 道徳的な価値については理解しているものの、自分自身の生活と結び付けて考えることが難しい。 - 友達の話を聞き、自分自身のこととつなげ、言葉で表現することが難しい。	- 道徳的価値と自分自身のことをつなげて考えられるように、毎時間の振り返りをきちんと行う。 - 交流の場面を設けて、自分の考えと友達の考えとつなげて考えることができるようにする。
外国語活動	- 楽しみながら英語に触れることはできているが、発音や表現の理解が難しく、身に付けられている児童は少ない。 - 表現の種類が多くなり難しくなってきたことで、話すことに抵抗を感じている児童もいる。	- アクティビティやゲーム、歌などさまざまな種類の活動を工夫して取り入れながら、どのような場面で使う言葉かを確認し、自然に英語の音声や表現に触れられたり、身に付けたりできるようにする。 - めあてを明確にして活動し振り返りをする中で、自分の成長を感じ、自信につなげられるようにする。

